
福岡市次期基本計画(マスタープラン)策定に向けた
民間意見の取りまとめプロジェクト

民間意見集

2023.11.9



福岡地域戦略推進協議会



FDCが2023年4月から9月まで行った「福岡市次期基本計画(マスタープラン)策定に向けた民間意見の取りまとめプロジェクト」で頂いたご意見をまとめました。

目次

1. プロジェクトの概要	… 2
2. 専用ホームページに頂いたご意見	… 3
3. 経済団体等から頂いたご意見	… 11
4. 意見聴取に資するイベントで頂いたご意見	… 15
5. 市内各団体から頂いたご意見	… 24
6. FDC会員から頂いたご意見	… 29

1. 民間意見取りまとめプロジェクトの概要

- ◆ 2024年度の福岡市次期基本計画（マスタープラン）の策定に当たり、FDCが主体となって、市内の様々な主体に働きかけを行い、FDC会員の意見はもとより、市内団体等の意見を取りまとめるなど、民間主導で福岡市次期基本計画（マスタープラン）の策定に意見出しを行う

目的 市内の多様な主体の意見を取りまとめ、民間主導で福岡市次期基本計画（マスタープラン）の策定に意見出しを行うため

取組期間 2023年4月～9月末

- 取組内容**
- (1) 専用ホームページの開設（意見聴取のための受付フォーム設置）
 - 個人95件／団体22件（延べ117件）
 - (2) 経済団体等へのヒアリング
 - 福岡商工会議所、九州経済連合会、九州大学（3団体）
 - (3) 意見聴取に資するイベントの開催（延べ176名）
 - キックオフイベント「10年後の福岡を語る」
 - 福岡テンジン大学・福岡未来創造プラットフォーム 共催イベント「ふくおか未来会議」
 - UR都市機構 共催イベント「Table Session Tenjin『10年後も働きたいまち』」
 - 福岡音楽都市協議会 共催イベント「音楽都市 福岡の未来」
 - (4) 市内各団体へのヒアリング
 - We Love 天神協議会、天神明治通り街づくり協議会、博多まちづくり推進協議会（3団体）
 - (5) FDC会員への意見聴取
 - FDC会員ワークショップ、部会での討議/意見聴取（延べ240名）

2. 専用ホームページに頂いたご意見

意見募集の方法と結果

◆ 専用ホームページを開設し、意見聴取のための受付フォームを設置した。

- ◆ URL : <https://www.fukuoka-dc.jp/masterplan/>
- ◆ 期間 : 2023年4月25日～9月8日
- ◆ 対象 : 福岡市を拠点とする、企業、事業者、業界団体、経済団体、エリマネ団体、大学等、NPO、PTA、その他各種団体および個人
- ◆ ジャンル (※) : 女性・子ども・教育／健康・福祉・高齢化／コミュニティ／生活基盤・交通／自然・環境／安全・安心／歴史・文化・スポーツ／観光・集客／農林水産／アジア・国際化／港湾・空港／産業振興
- ◆ 募集結果 : 延べ117件
 - ◆ 福岡市民 (市内在住者) のみならず、市外・都市圏外在住者からも意見を頂いた。

種別	意見数
団体	22件
個人	95件

専用ホームページに頂いたご意見（団体・個人）

◆ 女性・こども・教育

- ◆ 産後ケアの拡充
- ◆ デジタルを活用した子育て支援：予防接種など必要な情報のプッシュ通知
- ◆ 共働きを踏まえた学校教育の見直しや支援：保育園での惣菜販売や塾・習い事など民間サービスへの学校の開放、夏休みの廃止など街の効率化
- ◆ 子どもプラザの拡充：良い施設なので自宅近傍に
- ◆ 子連れで外出しやすいまち：歩道やエレベーターなどハード改善、まち全体で子育てする雰囲気づくり、民間企業の柔軟な働き方を取り入れる制度
- ◆ 育児する女性が働きやすいまち：事業所内保育所拡充へのインセンティブ、ベビーシッターなど外部サービス活用支援、働く母親のコミュニティ構築支援、保育所と老人ホームの連携交流、病児保育所の拡充
- ◆ 子どもが過ごす環境への投資：学校施設の老朽・劣化への対応、クリエイティブで自由な発想を生みやすい環境整備
- ◆ 義務教育プログラムの抜本的改革：世界で勝ち抜くために暗記主体のコントロール教育の見直し、特区を活用した差別化
- ◆ 個人の金融教育の強化：金融都市を目指して早期（小中）や親世代への金融教育の推進
- ◆ 質の高いネイティブティーチャーの登用など小学校（特に1・2年生）の英語教育強化

- ◆ 国際都市の人的インフラづくり：高校卒業までに英語が話せるを目標とした小中高校生の外国語教育強化や留学等支援、外国人の積極雇用と子供同士の交流活性化、インターナショナルスクール誘致や公立小での外国人対応クラスの増設
- ◆ 小中学校のアントレプレナーシップ教育支援：スタートアップ都市として、公立小中で起業を知る機会提供や、地域の祭りで子どもの出店企画の支援により次世代の起業家育成
- ◆ 産官学連携による福岡市・福岡県・九州全域の地域人材の育成
- ◆ 性別・障がい・国籍に関わらずあらゆる人々に学びや働くことへのハードルのないまち：それぞれの個性やステージに合わせた情報提供や活躍機会

◆ 健康・福祉・高齢化

- ◆ インクルーシブ公民館の普及：誰もが主体的に参画出来る街づくり
- ◆ 助け合いの社会：市民同士の長屋的助け合いをデジタル活用で再現、安全に信用で繋がれる基盤
- ◆ 特殊詐欺対策の推進
- ◆ PHR（パーソナルヘルスレコード）の実装と情報銀行の整備
- ◆ 人口減少・高齢化への対応：DXのための情報インフラ整備、外国人生活インフラなどダイバーシティの実現、都心居住の誘導

専用ホームページに頂いたご意見（団体・個人）

◆ 自然・環境

- ◆ 循環型社会の構築：地球環境にやさしいアジアのリーダー都市であってほしい
- ◆ 気候危機への取り組み：健康と環境を結びつけたプラネタリーヘルス、都市緑化率の向上、脱炭素教育
- ◆ 脱炭素事業の実践によるゼロカーボン化の実現
- ◆ 水素を核とするエネルギー供給・利用の多様化：水素を利用した供給低コスト化モデルの構築、再生可能エネルギー由来の水素製造のエネルギーマネジメント、水素を利用したスマートシティの構築など
- ◆ 電気自動車の充電スポットの拡充：脱炭素に向けて市有地や公共用地でのスポット増、民間施設との連携
- ◆ 自然破壊の防止と環境の維持：開発計画や確認申請の基準を厳しくする
- ◆ 建築物における木利用への支援：木造建築物の建設企業やサプライチェーンを創出する企業、木供給に関与する企業・人への支援・助成、森林環境税の利用促進

- ◆ 都心部の機能更新と環境問題（地球温暖化対策）の連携強化：都心部機能更新に際して都心域外での温暖化対策への資金支援など制度改訂、温暖化対策のためのプラットフォーム設置
- ◆ 温暖化を踏まえた歩きたくなる街の形成：ウォーカブルな都市づくり、河川沿いの緑化等
- ◆ 都心周辺のみどりのネットワークづくり
- ◆ 公園・緑地の維持拡大と民主的な意思決定システムの導入

◆ コミュニティ

- ◆ 公民館の有効活用：地域人口と比例していない公民館運営費の予算分配方法の検討
- ◆ コミュニティの場としての公園活用：市民が公園を活用してイベント実施やコミュニティの場をつくる支援、手続きの簡易化やイベント実施の支援メニュー、コミュニティパーク等制度の拡充
- ◆ 多様な働き方ができるまちの醸成
- ◆ ダイバーシティの実現
- ◆ 多文化共生のまちづくり：アジアからの研修生や留学生など在住外国人との市民・生活レベルでの異文化交流の機会、外国人の方の居場所づくり
- ◆ 様々なコミュニティの交流：エンジニアと社会課題コミュニティなど交わることのなかったコミュニティ同士の交流連携

専用ホームページに頂いたご意見（団体・個人）

◆ 生活基盤・交通

- ◆ 九州・山口地域全体の世界からのゲートウェイとして大胆な交通ネットワークの構想、高速鉄道の大分や宮崎方面への連携による広域交流
- ◆ 交通網の拡充：地下鉄、空港の改善、新交通システムの導入など
- ◆ 効率的な交通インフラの展開
- ◆ 移動のわかりやすさ向上と事業者間連携
- ◆ 自動運転の小型モビリティが動き回れる都市交通のあり方検討とスポットでの社会実験
- ◆ 南区城南区南部の交通利便性の改善
- ◆ PayPayドームまでの交通アクセスの改善
- ◆ アイランドシティ方面への公共交通の拡充：百道方面からの直通交通を海上交通も含めて検討、温室効果ガスの削減に寄与
- ◆ 姪浜以西の交通網の改善
- ◆ 七隈線沿線の延伸：橋本駅と姪浜駅の接続
- ◆ 市営地下鉄の延伸
- ◆ 西鉄貝塚線への地下鉄乗り入れとアイランドシティへの延伸
- ◆ JRの増便
- ◆ イベント実施時の会場周辺の混雑緩和：福岡ドームや博物館の催事日に緊急車両も通れない状況の改善、イベント主催者への交通整理の義務付けや混雑情報の発信、通行者への課金などの検討
- ◆ ドーム公演時の渋滞緩和に向けたデータ連携基盤の活用：輸送能力や混雑状況の可視化、渋滞を予防する施策、弾力性のあるオペレーション支援

- ◆ 天神都心部の歩行者天国化
- ◆ 天神をウォーカブルなまちへ：明治通り（一部）のトランジットモール化、東西南北の外縁部にフリンジパーキング整備、公共交通へのスムーズな乗り換えによりマイカー排除
- ◆ 自家用車の抑制による天神・博多以外のエリアの活性
- ◆ 渋滞の解消とウォーカブル
- ◆ 徒歩の通勤通学の推奨による環境保全と健康増進
- ◆ ウォーカブルでクリエイティブな都市になるための道路空間・交通戦略の検討
- ◆ 住みやすい福岡：ベビーカーの親子、キャリーケースをもつ旅行者・出張者、車椅子の方が駅構内で迅速にエレベーターを見つけられる仕組み
- ◆ 都市計画道路の整備促進：天神通線や薬院舞鶴線の整備、面的整備と一体となった市街地整備
- ◆ 交差点の交通安全：ユニバーサルデザインでの交通サイン整備
- ◆ 深夜のバイクが怖い
- ◆ 線路の高架化の実現
- ◆ 市営住宅の整備：老朽化した市営住宅の機能更新によりアフオーダブル・インクルーシブ住宅として生活水準の底上げ
- ◆ 人口抑制：人口増加による住環境悪化
- ◆ 新宮町の福岡市への編入
- ◆ 福岡都市圏との連携促進：福岡市のノウハウを周辺自治体に共有し都市圏全体での成長を促す

専用ホームページに頂いたご意見（団体・個人）

◆ 歴史・文化・スポーツ

- ◆ 日常的に偶発的にエンターテイメントに触れることのできる生活
- ◆ 気軽にパフォーマンスできる広場づくり：ミュージシャンやパフォーマーが低コストで演奏できる場、新たなクリエイターの育ちやすい土壌
- ◆ 芸術・文化を活かしたまちづくり：文化芸術アートは市民・民族のアイデンティティやシビックプライドに影響、日常的に質の高い文化芸術に触れられる環境づくり
- ◆ 文化芸術活動の促進：音楽や創作活動に取り組めるフリースペースの確保
- ◆ 文化・芸術のシンボルとなる施設の設立：歴史的文化財や数々のアーティスト輩出というポテンシャルを生かした観光の拠点にもなるシンボル施設
- ◆ アートのエコシステム構築：アーティストが定住・制作・発表しやすい環境整備、アーティストカフェに低廉な専用アトリエやアーティスト同士の交流の場など機能強化、市内のアートディストリクトの設定、企業のアート購入へのインセンティブ創設
- ◆ アジアを代表する音楽都市に向けて切磋琢磨できる仕掛けと名物化：福岡版音楽の甲子園の官民プロデュース
- ◆ 音楽支援財団の立上げ：AI時代に備え、余暇と趣味を楽しめる環境づくり

- ◆ アジアを代表し国際試合ができる街中スタジアムの建設、スポーツツーリズムによるインバウンド獲得
- ◆ スポーツができる公園の整備：球技専用のグラウンドなどスポーツしたい人ができる環境整備
- ◆ アビスパ福岡の官民一体での支援：J1定着・ACL出場に向けた支援でサポーター来福による経済効果・知名度向上、福岡空港から博多の森競技場へのアクセス改善

◆ 安全・安心

- ◆ 大規模災害への備え：様々な防災機能の要素を取り入れた福岡市モデル地域防災拠点の整備と展開
- ◆ 大規模な災害への備え：市外在住・市内就労者を想定した避難場所確保やインフラ整備、周辺自治体と連携した防災への備え（防災拠点や設備）
- ◆ セキュリティ対策に関する訓練：企業・行政のCSOの意見交換の場づくりなど地域社会全体でサイバー攻撃への対応
- ◆ 防災都市としての発信と官民連携モデルエリア

◆ 農林水産

- ◆ 学校給食を有機食材に置き換え：農薬健康被害の意識が低い日本、給食を有機栽培の食べ物に
- ◆ 農地・税・固定資産など台帳の統一化とベースレジストリの整備

専用ホームページに頂いたご意見（団体・個人）

◆ 観光・集客

- ◆ 海外の方に向けた魅力ある福岡の街づくり
- ◆ もっと福岡をPRすべき：住みやすい都市として九州以外の他地域でのPR活動を強化し移住促進
- ◆ 外資系ホテルと連携したシティセールス：外資系ホテル会員組織を活用して世界の富裕層にむけた九州福岡の情報発信、福岡を起点とした九州ルート観光提案
- ◆ 官民連携した休日分散による観光需要取込の平準化と最大化：オーバーツーリズムや人材不足等への対策
- ◆ オーバーツーリズムの克服：経済効果最大化と市民生活向上のため、外国人観光客の郊外誘導や都市圏での受入体制構築、混雑情報の発信共有やキャッシュレス決済など都市のDX化の推進
- ◆ 百道周辺の河川河口部の有効活用：水辺の景観を生かした集客
- ◆ ビーチの観光資源の活用：交通アクセス改善、ビーチを生かしたホテル開発
- ◆ 港湾部工業地域の再開発：スポーツ施設など観光や産業振興に適した用途での開発、デベロッパ任せにせず福岡市のハンドリングによる計画

◆ アジア・国際化

- ◆ 観光地として選ばれるための国外への魅力発信や企業の取り組み支援、名物イベントの創出
- ◆ ダイバーシティ福岡の実現：人口減少を見据えた海外企業の誘致と外国人居住の促進、多様な人々が幸せに暮らせるwell-beingな福岡
- ◆ 海外の人にも住みやすいまち：行政・民間企業の言語対応できる人材拡充、外国人向け教育・医療など生活環境整備にさらなる注力
- ◆ 海外高度人材向け住宅の建設促進：各種計画制度により高級レジデンスの民間開発を促進
- ◆ 外国人との共生のまち：地政学的リスクの高まりを踏まえた外国からの直接投資を促す施策、海外企業誘致に伴う受け入れ体制・機能の具備
- ◆ 都市間競争への対応：都市基盤整備、ウェルビーイングなまちづくり、九州のネットワーク化、インバウンド対応

◆ 港湾・空港

- ◆ 福岡空港と他の空港との連携：滑走路増設でもインバウンド流入量には不足、北九州・佐賀空港との連携補完
- ◆ 海底ケーブル敷設とデータセンターの誘致：香港・台湾からの海底ケーブル敷設、国内のデータセンター構築、再生可能エネルギーと蓄電池網による電力供給とセットでの投資でレジリエンス強化

専用ホームページに頂いたご意見（団体・個人）

◆ 産業振興

- ◆ 自由に交流できる都市：企業・業種・年代・国籍を超えて自由に交流できる仕掛け
- ◆ 副業を応援する企業・個人制度の制定：インターン・リスクリング促進による働く人のウェルビーイング向上
- ◆ 若者が集う/留まるまち：就職先の選択肢が東京大阪と比べて減少、いま福岡にいる若者が留まりたいと思うきっかけづくり
- ◆ 男女比率の適正化や少子化への対策としてIT関連企業の誘致と生活・教育の充実
- ◆ 外部人材活用による地場企業の事業成長：事業成長人材の不足解消のための人材データベース、経営者の創出など
- ◆ 地場企業・中小企業のイノベーション促進支援：地場企業や中小企業とスタートアップの協業支援、交流コミュニティ・エコシステム構築
- ◆ スタートアップの成長支援：福岡市も出資する官民ファンドの設立、行政による有望スタートアップの認定とインセンティブを受けられる仕組み
- ◆ スタートアップエコシステムの強化：ミドルレイター期のスタートアップの支援強化としてCFO人材のプール化と派遣

- ◆ 九州大学キャンパス周辺への企業誘致：伊都キャンパス周辺を学研都市として、大学との共同研究 崎候補になりうる理工系企業の誘致
- ◆ 福岡証券取引所の活性化：インパクト投資・インパクトIPO市場へ
- ◆ 国際金融都市実現に向け現代版金融出島の設置
- ◆ 福北連携の強化：第三次産業/福岡と第二次産業/北九州の相互補完で新産業創出、スタートアップの協働によるイノベーション創出、大学間の交流
- ◆ 天神ビッグバン・博多コネクティッドの成果の周辺への波及：福岡経済の高度化への期待と高付加価値産業を支える裾野産業への支援
- ◆ 二次空室対策の支援：天神BB等により小規模・築古ビルのテナント移転/駐車場転換など都市のスポンジ化の懸念、所有者へのリーシング・リノベーション・DX化の支援

◆ その他（プロジェクトや計画全体への意見）

- ◆ FDCが間に合わない方がよい：FDCの集約結果は会員企業の幸福に寄り、必要な人や団体にお金が回らない
- ◆ トークセッションを聞いて、マスタープランを自分ごととして考えたいと思う
- ◆ 単なるマスタープランの改訂に止まらず、その根底にある基本構想の検討も必要

3. 経済団体等から頂いたご意見

- ・福岡商工会議所
- ・九州経済連合会
- ・九州大学

経済団体等から頂いたご意見

◆ 福岡商工会議所

◆ 福岡・博多の歴史・文化を活かしたまちづくりの推進

- 福岡市は、古代から外交・貿易拠点としての歴史を積み重ね、魅力ある文化を築き上げてきたが、その強みを上手く活かしてきれていない。天神・博多などの都市再開発も進み、国内でもっとも勢いが注目される都市となっている中で、市民がもっと地元の歴史・文化に興味を持ち、郷土愛を醸成できる街づくりが必要。また、鴻臚館や福岡城など、市民が誇りを持てるシンボル（ランドマーク）の必要性や、観光ボランティアガイドなどの人材の育成に加え、新たな見どころの発掘など、官民一体となった歴史・文化を活かしたまちづくりを推進すべき。

◆ 中小企業のデジタル化

- 深刻化する人手不足や我が国の生産性向上のためには、大企業のみならず中小企業のデジタル化も重要である。
- また、中小企業の生産性向上だけでなく、デジタルを活用した新たなビジネスやサービスの創出にも力を入れていくべき。

◆ Uターン/Iターンの促進

- まちを盛り上げていくためには、人材という観点も重要。理工系人材をはじめとする優秀な人材の首都圏等への流出という現状を踏まえても、如何にして、福岡・九州の人材を地域に留めるか、また、如何にして国内外の優秀な人材に福岡を選んでもらうかが重要。魅力ある「働く場所」としての環境整備や情報発信に力を入れていくべき。

経済団体等から頂いたご意見

◆ 九州経済連合会

◆ スマートリージョン・九州の中核都市（with the 九州・with the ASIA）

- 福岡市は、国家戦略特区として、規制緩和などの全国の実先駆けとなる取組を行っている。そのような取組が、福岡県内だけでなく、九州に裨益して各地域の成長に寄与し、九州各地域の成長が福岡市の成長に寄与するという好循環を構築。九州が一体となってアジア各国との関係を構築し、互いの成長につなげていくべき。

◆ 九州MaaSをリードするモビリティMaaSの導入・推進

- 各種規制緩和スキームを活用し、大都市福岡ならではの持続可能なモビリティサービス/MaaSの実現に向けたスキームの構築を目指す。そして、全国の政令市に先駆け、民間交通事業者との連携をより強固にするべき。
- 九州MaaSに向けた公共交通ネットワークの整備に取り組み、九州MaaSを活用した九州広域観光圏やアジア広域観光圏の形成を目指す。その結果、観光やビジネスなどあらゆる分野における相乗効果が見込める。

◆ 将来に向けた新たな価値の創出

- 多様な人材が相互に助け合いながら、生き生きと生活できる共助社会を実現するダイバーシティ・インクルージョンコミュニティの形成が重要。
- 水素技術の実装支援や再生可能エネルギー導入支援などを行い、脱炭素社会の実現を目指すべき。

経済団体等から頂いたご意見

◆ 九州大学

◆ 学研都市のまちづくり

- 九州大学としては、総合知を掲げ、大学のアセットを社会に役立てていくことを目指している。「学研都市としてのまちづくり」を福岡市と連携し、東側（九州大学跡地の開発など）や中央（天神ビッグバン、博多コネクティッド）と共に、福岡市の西側もサイエンス&イノベーションバレーのようなイメージで盛り上げていただきたい。

◆ 国際化の推進

- 九州大学としても、国際化は重要な要素と考えている。外国人教員等にもヒアリングをして、中でも、国際人材・高度人材が求める生活環境（特に住環境、教育環境）の提供が必要。例えば、西区を生活特区にして、外国人に特化した学校や医療、住居の環境を整備し、外国人に住みやすい街にすることなど福岡市ならではの特徴的な取り組みを検討すべき。

◆ 社会との連携

- ワークেশンプログラムの実施やいとLab+など九州大学の知を活用したシチズンサイエンス等の取り組みを今後強化するべき。

4. 意見聴取に資するイベントで頂いたご意見

- ・キックオフイベント「10年後の福岡を語る」
- ・福岡テンジン大学・福岡未来創造プラットフォーム 共催イベント「ふくおか未来会議」
- ・UR都市機構 共催イベント「Table Session Tenjin『10年後も働きたいまち』」
- ・福岡音楽都市協議会 共催イベント「音楽都市 福岡の未来」

意見聴取に資するイベント

◆ 民間意見取りまとめプロジェクト キックオフイベント

「10年後の福岡を語る -福岡市マスタープラン策定に向けて-」

- ◆ 日時：2023年7月19日（水）19:00～21:00
- ◆ 場所：コワーキングスペースQ
- ◆ 参加人数：65名
- ◆ 登壇者：都心空間交流デザイン 松岡恭子氏、九州大学 黒瀬武史氏、福岡アジア都市研究所 山田美里氏、FDC石丸
- ◆ 主催：福岡地域戦略推進協議会



意見聴取に資するイベント

◆ イベントで頂いたご意見

- ◆ 第9次基本計画の概要紹介、福岡アジア都市研究所の『第3極の都市』研究で示される世界の都市と比較した福岡の現在地に関する話題提供の後、トークセッションでは過去10年の福岡の歩みを振り返り、次期マスタープランで考えるべき視点や論点を議論した。
- ◆ 議論は一貫して基本計画に掲げる「生活の質の向上」と「都市の成長」の好循環に焦点が当たり、その再定義や福岡らしい両立について産学官民で議論していく必要性が示唆された。

◆ 「生活の質の向上」に関する視点・論点：

- 教育や子育て環境などの充実で外国人を含め多様な人々が受け入れられるまちになれば、企業誘致ひいては都市の成長にもつながる。
- インクルーシブや福祉は、ウェルビーイングの観点から生活の質の向上に重要なファクターである。
- 文化やスポーツなど暮らしを豊かにする要素をどう捉えていくか。
- 福岡市のためだけでなく、都市圏ひいては九州の首都/ゲートウェイとして福岡はどう役割を果たしていくか。

◆ 今後10年の福岡を考える視点・論点：

- 10年前、福岡は住みやすく生活の満足度が高かったが、都市間競争において持続可能性が難しかった。
- 地球環境の悪化や少子高齢化の中、「福岡いいよね」と現状のバランスに満足してはいけけない。
- 世界的に価値観や都市に対する評価が変化。福岡の今後10年の成長は、経済規模だけでなくウェルビーイングや定住のしやすさといった質の向上を考える必要がある。
- 160万人都市の基本計画を皆で議論することは難しいが、市民・企業・団体と目標を共有するツールとして自分ごと化

◆ 「都市の成長」に関する視点・論点：

- 長期戦略の中で、どのように福岡らしい成長を進めていくか、成長（growth）の中身や定義を変えていかなければならない。
- グローバル化＝福岡の個性が失われていくブリーチ（漂白）ではなく、個性を伸ばす成長をハードのまちづくりでも考えなければならぬ。
- 成長のために産業をどうつくっていくか。福岡らしさを残しながら、どう新しいチャレンジを考えていくか。
- 福岡らしいローカリティを多くの人アクセスできる場にどう残していくか。福岡のコンパクトな規模なら両立できるはずなので、新しい産業を支えるために必要な都市空間を考えていかななくてはならない。

意見聴取に資するイベント

◆ 福岡テンジン大学・福岡未来創造プラットフォーム連携イベント

「ふくおか未来会議 ～10年後の福岡を創造しよう！～」

- ◆ 日時：2023年8月26日(土) 13:00～16:00
- ◆ 場所：西南学院大学 西南学院百年館 多目的ホール
- ◆ 登壇者：福岡未来創造プラットフォーム 山田雄三氏、福岡市、FDC 前田真
- ◆ 参加者数：54名
- ◆ 主催：福岡テンジン大学、福岡地域戦略推進協議会、福岡未来創造プラットフォーム



意見聴取に資するイベント

◆ イベント参加者から頂いたご意見

- ◆ 産学官民それぞれの視点での過去10年の振り返りを踏まえて対話し、参加者それぞれから10年後の福岡の未来を表すキーワードが出された。
- ◆ 福岡市が、多様性、包括性、持続可能性を重要視した魅力的なコミュニティとなっていること。市民がつながり協働し、安全で健やかに過ごし、働きやすく、文化と歴史を大切し、福岡市以外のまちのことも考える、持続可能なまちが望まれていることが示唆された。

◆ つながりと協働のまち:

- 世代や属性をまたいで市民同士がつながれるまち
- ゆるいつながりがあるまち：居場所、よりあいの場所
- 性別、世代、国籍問わず笑顔で円を囲み団らんしているまち
- 交流が盛んなまち
- 利益重視でなく、情報共有して、みんなで作り上げていくまち
- みんなが笑顔で健やかに過ごせる、ゆるいつながりのあるまち

◆ 健やかなまち:

- あらゆる人に選択肢（可能性）が開かれるまち
- 子育て世代、障がい者、高齢者など誰ひとり取り残さないまち
- 子どもの安心・安全のために大人が協力しあい、子育て世代の経済的不安をなくし、子どもが「良い学び」にアクセスできるまち
- 幸福を感じるまち

◆ 働きやすいまち:

- どんな人・業種でも働きやすいまち
- 働く、暮らすの選択肢にワクワクできるまち

◆ 文化や環境、歴史を大切にするまち:

- 良い思い出で溢れるまち
- 歴史を大切にし、市民同士が積極的に関わり、助け合うまち
- ゼロカーボン首都 福岡

◆ 福岡県と支え合うまち:

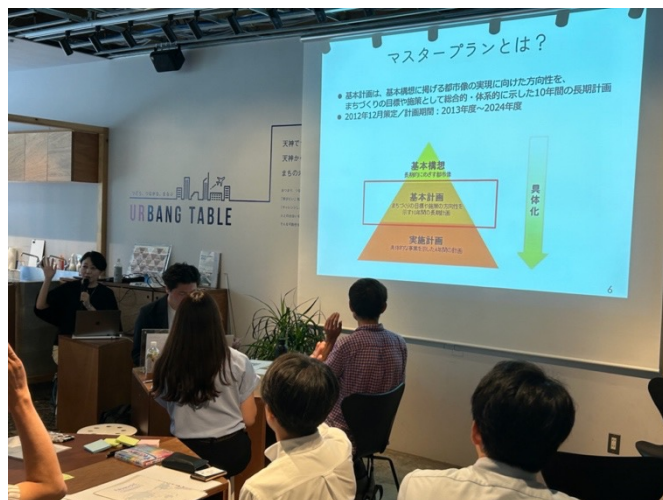
- 福岡にある全ての市町村が協力して福岡のまちづくりに取り組んでいる
- 福岡市だけでなく、福岡県で誰もが住みやすいまちづくり

意見聴取に資するイベント

◆ Urbang Table 連携イベント

Table Session Tenjin「10年後の働きたいまちを考える未来新聞づくり」

- ◆ 日時：2023年8月31日（木）16:00～18:30
- ◆ 場所：Urbang Table
- ◆ 参加人数：19名
- ◆ 登壇者：Project Mariage 笠淑美氏、FDC片田江
- ◆ 主催：UR都市機構、共催：福岡地域戦略推進協議会



意見聴取に資するイベント

◆ イベント参加者から頂いたご意見

- ◆ 第9次基本計画の概要や福岡のまちづくりに関するトピックス、Urbang Tableが掲げる「ウェルビーイング（心身ともに良好な状態）」の概念を紹介した後、ワークショップでは、10年後のまちの姿、そこで働く自分を想像しながら「働きたいまち」を未来新聞の形式で描いた。
- ◆ 柔軟な働き方を支える制度や、働く都心への移動に関する意見、個性の尊重や労働からの脱却など、ウェルビーイングの観点から幅広い意見が寄せられた。

◆ 柔軟に働けるまち:

- 場所にとらわれない働き方のまち：オフィス空間のシェア、コラボレーションやイノベーションを生む
- 時間に区切られない働き方のまち：週休3日や副業自由化で進むウェルビーイング
- 労働時間の半減

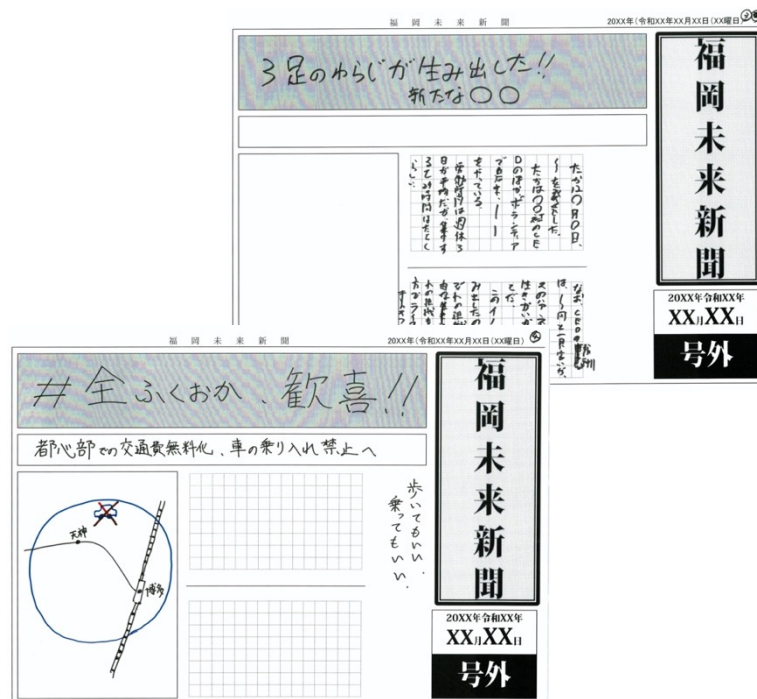
◆ ウォーカブルなまち（歩きたくなる/居心地の良い）:

- みんなで歩こう宣言：福岡都心部の自動車乗り入れ禁止で環境保護と健康増進
- 憩いの場がある天神

◆ 個性や自由が尊重されるまち:

- 多様な意見が反映される市政
- 日本初「個性の尊重」条例化
- 労働からの脱却：趣味や好きなことで稼ぐを応援、インターンの積極受入

制作された未来新聞（抜粋）



意見聴取に資するイベント

◆ 福岡音楽都市協議会 連携イベント

トークセッション「音楽都市 福岡の未来」

- ◆ 日時：2023年9月8日（金）18:30～20:00
- ◆ 場所：明治安田ホール福岡
- ◆ 参加人数：38名
- ◆ 主催：福岡音楽都市協議会、福岡地域戦略推進協議会
- ◆ 登壇者：福岡音楽都市協議会 深町健二郎氏、寒竹麻衣子氏、南原尚幸氏、FDC石丸



意見聴取に資するイベント

◆ イベントで頂いたご意見

- ◆ 福岡音楽都市協議会がこれまで行った活動の紹介とともに、今後福岡が日本・アジアを代表する音楽都市を目指す上で取り組むべきことについて議論した。
- ◆ 福岡は多彩なアーティストの輩出や音楽フェスの開催など音楽が都市の魅力になっており、国際的にも高く評価されていることから、そのポテンシャルをまちづくりに活かす方策として、人材育成、異文化交流、音楽産業振興、都市ブランディングの観点から取り組みが提案された。

◆ 音楽都市として目指す姿:

- ナイトタイムエコノミー、治安改善など音楽が都市にもたらす効果は幅広い
- コンパクトな都市だからこそ多様な人々が交わり新たな価値を生める、アジアの地の利を活かすなど福岡ならではの音楽都市を目指す

◆ 音楽人材の育成:

- 学校教育での多彩な音楽への触れ合いなど幼少期の原体験づくり
- シニアの方が音楽に触れる環境や仕組みづくり
- 野外イベントなど日常的に音楽に触れる機会づくり
- 指導者人材の育成、音楽に携わる人材誘致・定着のための環境整備
- 埋もれている人材や女性の活躍の場づくり・支援
- プロやプロを目指す人材のための住環境

◆ 異文化交流

- 音楽都市のデータベース化やビジネスマッチング
- 音楽のベニューの多様化への対応：公開空地でのストリートライブの推進、野外音楽堂の整備
- アーティストカフェの拡充：音楽も含めたカルチャー芸術全般の支援
- 異ジャンルに触れ合う場づくり

◆ 音楽産業振興・都市ブランディング:

- 音楽スタートアップ都市（音楽を始めやすい活動しやすいビジネスにしやすい街）としてのブランディングと仕組みづくり：エンタメ税、スタートアップ減税の音楽版など
- 国際MICE（ミュージック・コンベンション）の誘致

5. 市内各団体から頂いたご意見

- ・ We Love 天神協議会
- ・ 天神明治通り街づくり協議会
- ・ 博多まちづくり推進協議会

市内各団体から頂いたご意見

◆ We Love 天神協議会

◆ 交通分野

- 都心部への過度な自動車流入の抑制
- 環境にやさしく持続可能な交通体系の整備
- パーソナルモビリティとの共存に向けたルール・インフラの整備、受入体制の構築

◆ 都市分野

- 賑わいに溢れた活力ある都心の形成
- グランドレベルや低層部に賑わい形成
- 都心の憩い空間の創出・充実
- 都心のウォーカブルな環境創出

◆ 防災分野

- 災害に強靱な都心の形成
- 安全で安心して過ごせる都心部の環境形成

◆ 経済・観光・文化・デジタル分野

- インバウンド受け入れ環境の充実
- 都市DXの推進
- 地域内経済循環の促進
- 地域コミュニティの醸成・強化
- 音楽やアート、文化的資源の活用推進

◆ 交通・福祉・生活・子育て・デジタル分野

- 都心のユニバーサルデザイン化の推進
- 多様な人を受け入れる環境、教育体制の充実

市内各団体から頂いたご意見

◆ 天神明治通り街づくり協議会①

◆ 1. 産業創出

- 再開発により、耐震・環境性能、セキュリティの高い、国際競争力のある大規模オフィスプレートの整備が進んでいる。今後は、国内外の企業から選ばれる、持続的なビジネス需要の創出が重要である。
- スタートアップ強化とあわせ、福岡都心部に新たな核となる産業の創出に取り組んでいただきたい。
(例：更なる国際金融機能強化、九州シリコンアイランド構想と連携した半導体産業、環境産業等)
- また、福岡市の知名度向上、企業誘致活動等にも連携して取り組んでいただきたい。

◆ 2. 環境

- 各事業者は環境負荷低減を目指し各種対策を進めているが、福岡市が掲げる2040年のカーボンニュートラル達成に向けては、個々の民間事業者の取り組みだけでは限界がある。
- 当エリアは福岡市の中心であり、福岡市におけるカーボンニュートラル実現を牽引する意味での先進的な取り組みの検討・実施に、連携して積極的に取り組んでいただきたい。
(例：建物間のエネルギー融通、エリアエネルギーマネジメント、再生可能エネルギーの域外発電等)
- 先進的な取り組みの検討や実施にあたっては、規制緩和や新たな支援制度・枠組みについてもご検討いただきたい。

◆ 3. 防災

- 非常時の電力供給期間は72時間とされ、各事業者は一時滞在施設の整備、エネルギーのBCP対応を進めているが、近年常態化した大規模な台風や線状降水帯等の自然災害や地震による大規模停電の対策としてはおよそ3日間の電力供給だけでは十分とは言えない。また、非常用電源の燃料備蓄や燃料確保の観点からも問題が多いと思われる。そうした中でMDCエリアが国内外企業に選ばれる街づくりを目指す上でもさらにエネルギー多重化によるレジリエンスを高めたBCP向上策の検討・実施に、連携して取り組んでいただきたい。

市内各団体から頂いたご意見

◆ 天神明治通り街づくり協議会②

◆ 4. 交通環境の改善

- 現在、世界主要都市では、道路空間の再編等が進められており、都市の競争力を高めるうえで、ウォークラブルなまちづくりの積極的な推進が必要である。
- 天神中心部への自動車流入の低減、道路空間の再編検討等、ウォークラブルなまちづくりの推進に協働で取り組んでいただきたい。
- 沿道のにぎわい創出のため、再開発で整備が進む、歩道上空地や広場を柔軟に活用できるよう、指導や制度による支援をお願いしたい。
- 建替えにより、地上・地下の立体的な歩行者ネットワーク整備が進む中で、さらなる地下ネットワークの充実(天神駅・地下街との接続強化等)に向け、行政もご協力いただきたい。

◆ 5. 将来の都心部まちづくり方針

- 当協議会のグランドデザイン実現に向けて、持続可能な街づくりを推進しエリア価値向上を図るために、行政とエリアマネジメント団体及び地権者団体(WLT、MDC)との間で、まちづくりの方向性等について定期的な意見交換の場を設けていただきたい。
- 天神ビッグバン終了も、引き続き連携してまちづくりに取り組んでいただきたい。
- 国際競争力強化(外資系企業の誘致)のため、国際的な教育施設や病院等の整備をお願いしたい。
- 再開発により増加した税収の一部を、都心部へ再投資する仕組みをご検討いただきたい。

市内各団体から頂いたご意見

◆ 博多まちづくり推進協議会

◆ にぎわい・回遊

- 博多のまちは、都心全体を牽引する“核”として、住む人・働く人・訪れる人がいきいきと活動し、いつでもにぎわいと期待感があり広域から来街者を引きつける魅力を持つ必要がある。集客力のある博多駅周辺やキャナルシティ博多周辺を拠点に、まち全体へ人を回遊させ、にぎわいを広げることが重要。
- 主軸をつなぎ、目的を持って訪れたい副軸の形成に向けて、みどりや花が連続する快適な歩行者空間の創出や、既存ストックの活用で個性的なショップや隠れ家的な飲食店を増やすなど訪れるたびに新しい発見がある通りの形成に、官民連携で取り組みたい。

◆ 安心・安全

- 安全・安心はまちづくりの基本であり、地域や行政、警察などが連携して事故や犯罪が少ないまちづくりが必要である。また、高齢者や障がい者、外国人、子ども連れの人など、誰もが安心して活動できるユニバーサルデザインも重要である。
- 防犯パトロールの実施や防犯カメラの設置、夜間でも安心して通行できる環境整備など、防犯に積極的に取り組むことで、安全なまちづくりを進めたい。

◆ 防災

- 地震や豪雨による都市型水害に対して、ハードとソフトの両面で人的・経済的被害を最小限に防ぐため、地域と行政の連携によるまちの防災機能向上が必要である。
- 多くの人々が迅速に災害・避難情報を入手できるよう、街頭や施設内のビジョンなどを活用した情報提供ができる環境づくりを進めたい。
- また、地域と行政が連携した防災体制が機能するよう、地域住民や企業を対象とした講習会の実施など、防災に関する教育や啓発に福岡市と連携して取り組みたい。

6. FDC会員から頂いたご意見

FDC会員への意見聴取

◆ FDCとしての意見提案をまとめるべく、全会員を対象としたワークショップを開催し、また各部会での意見聴取を行った。

◆ FDC会員マスタープランワークショップ

- ◆ 日時：2023年8月7日（月）13：00～16：00
- ◆ 会場：大名カンファレンス Link Room1
- ◆ 参加者数：FDC会員 35名（正・賛助会員）
- ◆ 主催：福岡地域戦略推進協議会

◆ 部会での意見聴取

産業創造部会

- ◆ 日時：2023年9月7日（木）15：00～16：30
- ◆ 参加者数：部会員 62名（うち会場参加30名）

都市創造部会

- ◆ 日時：2023年8月30日（水）10：00～11：30
- ◆ 参加者数：部会員 73名（うち会場参加40名）

デジタル部会

- ◆ 日時：2023年8月22日（火）15：00～16：30
- ◆ 参加者数：部会員 70名（うち会場参加18名）



議論テーマの設定

- FDCは2030年をターゲットとした第2次地域戦略を策定している
- 地域戦略を目指す上で、マスタープラン意見提案で議論すべきテーマを設定した

地域戦略の推進

議論テーマ

FDCの掲げる福岡地域の将来像

東アジアのビジネスハブ

～福岡都市圏は国際競争力を備えたアジアで最も持続可能な地域を目指す～

戦略指針

交流の質を上げ、都市の成長と生活の質の向上の好循環を確固たるものに
～「住みやすい」から「持続可能(SDGs)」な成長へ～

産業創造

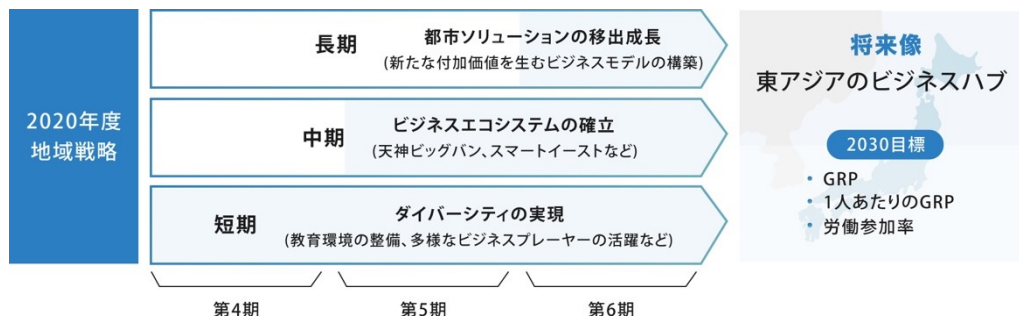
1. 基幹産業の変革推進、再定義
2. 広域戦略ありきの産業政策
3. ダイバーシティ&インクルージョン推進 = 競争戦略
4. 社会課題解決に資するイノベーションの推進

都市創造

1. イノベーション都市の実現に向け、都心/中間/郊外に備えるべき機能と実現施策
2. 都市圏・九州と一緒に発展するリーダー都市としての施策

デジタル

1. 全体共通基盤（DXを支える）構築
2. 共助モデル構築（都市創造[まちのDX]、産業創造[仕事のDX]）



FDC会員から頂いたご意見

◆ 産業創造

- ◆ 福岡の基幹産業である卸・小売、運輸・郵便、宿泊・飲食サービスにおいて、生産性向上を図るためにDX推進とオープンイノベーションが重要。食産業では冷凍技術成長と世界的食品ブランド創出、観光産業では宿泊とエンタメ・スポーツの融合など、付加価値を高める方策。産学官連携による高度人材の育成が必要。
- ◆ 広域連携（福岡都市圏・福岡県・九州）を重要視した産業政策を進める。九州の観光ハブ、宇宙産業に焦点を当てた環境整備や人材活躍など。
- ◆ 福岡市の競争戦略として、多様性と包摂性を重視した産業政策を進める。女性や外国人の働きやすい環境づくり、高齢化に備えたシニアの活躍、ダイバーシティ&インクルージョンに加えてエクイティ（公平・公正）の推進など。
- ◆ 社会課題解決に向けたイノベーションを促進し、新たな成長エンジンとして活用する。医療介護、グリーン・エネルギー、AI、移動・交通など。

◆ 都市創造

- ◆ 都心、中間、郊外それぞれに特性を生かした機能が配置されたイノベーション都市の実現を目指す。都心ではビジネス集積や国際化、比較的低廉な中間・郊外では挑戦できる環境整備と住みやすさ向上を図る。エリア毎の特色を生かしつつ、市全体で人材育成や交流促進を図り、国際競争力を強化する。
- ◆ 都市圏や九州と連携したリーダー都市として発展する。地域資源を活かして経済成長を促進し、イノベーションを生み出す。またインフラと交通ネットワークの強化により、都市圏・九州全体の発展を目指す。

◆ デジタル

- ◆ DXを支える全体共通基盤の構築のために、官民でのデータ活用の促進、インフラやルール作りなどの環境整備が必要。
- ◆ 共助モデルの構築では、都市DXと産業DXの両方が重要。都市DXでは行政サービス、防災・防犯、交通のデジタル化など。産業DXでは、健康医療、観光、教育、食品業界でのデジタル活用やデータ一元化など。

(参考) ワークショップ等で頂いたご意見

◆ 産業創造部会 議論テーマ

● 論点1 : 基幹産業の変革推進、再定義

福岡の基幹産業である卸・小売、運輸・郵便、宿泊・飲食サービスなどは生産性が低く足元成長できていないが、アジアの交流拠点都市として、今後とも重要な産業であり続けられると思われる。DX推進によって生産性を飛躍的に高めたり、デジタルとリアルの融合や他産業とのオープンイノベーションを推進し、これら産業を成長産業化することを目指してはどうだろうか？

● 論点2 : 広域戦略ありきの産業政策

自治体間の広域連携の重要性がますます高まっている。例えば、MICE/観光や食関連産業、エネルギーなどの領域において、福岡都市圏や福岡県、九州など広域連携のもとで取り組む「成長事業」を構想した後に、その中核を担うという視点から、福岡市としての産業政策を計画してはどうだろうか？

● 論点3 : ダイバーシティ&インクルージョン推進 = 競争戦略

多様な人材が、全員参加で価値創造ができる社会にしていくことが重要である。「女性活躍推進」や「外国人共生社会づくり」等の取り組みを産業政策として戦略的、積極的に展開してはどうだろうか？

● 論点4 : 社会課題解決に資するイノベーションの推進

生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出すことを継続推進しつつ、一方で、自律分散型エネルギー社会や循環型社会システムの構築を「産業」や「ビジネス」の文脈から強力に推進するなど、社会課題解決に資するイノベーションを新たな成長エンジンにしていきたい。

◆ 1 : 基幹産業の変革推進、再定義

食・観光産業の付加価値を高める方策や新たな産業形成にむけた人材育成、国際化などの意見

◆ 食産業:

- ◆ 冷凍技術産業の成長潜在性
- ◆ 世界に通用する食品ブランド（企業）の創出、日本酒などお酒産業のポテンシャル
- ◆ 食体験のエンタメ化、コンテンツ化

◆ 観光産業:

- ◆ 観光地への交通課題
- ◆ 宿泊×エンタメ、宿泊×スポーツ
- ◆ 海外での発信やインバウンド向けの発信強化、アジア外の来街強化、欧米系インバウンドの観光強化、アジア人を惹きつける食・歴史資源の活用
- ◆ 観光資源の発掘と明確化（福岡城の再建・バーチャルツアー、歴史文化や芸術の資源の活用）

◆ 人材育成

- ◆ 半導体人材の育成
- ◆ 九大理系人材の活躍
- ◆ 国際化の推進、外国語教育の充実、アジアの人と交わる環境づくり（小中高大でのプログラム、チャイナタウンなど）
- ◆ リスキリング支援
- ◆ 産学官連携による高度人材の育成（半導体、AI、データサイエンティスト）

◆ その他産業の強化や新産業の創造

- ◆ 「編集」観点からの産業形成：デザイン、広告、マッチング産業の強化
- ◆ 一次産業の可能性の検討
- ◆ 物流産業の強化
- ◆ 技助ビジネス産業：省力化、省人化
- ◆ 海外企業の積極的誘致（インターナショナルスクールや病院等）、バックオフィスの誘致集約、本社機能の誘致
- ◆ 商業版シリコンバレー化
- ◆ アートが売れる福岡に
- ◆ 大学や企業のアセットを生かしたオープンイノベーション

◆ 2 : 広域戦略ありきの産業政策

地域資源を生かした九州広域での産業成長などの意見

- ◆ 福岡を九州のハブとして活用する産業（九州各地の名産品が体験できる等）
- ◆ テーマパークやIRの誘致
- ◆ 広域観光DMO（九州全県など）、九州の魅力を発信する場・拠点
- ◆ 九大理系人材が広く活躍できる宇宙産業の在り方

◆ 3 : ダイバーシティ&インクルージョン推進 = 競争戦略

女性、高齢者などの人材活躍を推進する意見

- ◆ 女性や外国人が働きやすい環境づくりを重視
- ◆ シニアの活躍の場づくりやケア人材の確保により、高齢化社会に備える
- ◆ ダイバーシティ&インクルージョンに加えてエクイティ（公平・公正）に対する産学官民での取り組み
- ◆ イノベーターが参加できる地域の祭りや制度の整備で地域への溶け込みを促進：文化を生かした人材誘致

◆ 4 : 社会課題解決に資するイノベーションの推進

社会課題を起点として新たな産業につなげるなどの意見

- ◆ 介護産業：海外からの介護人材派遣
- ◆ 大牟田市との連携
- ◆ ソーシャルビジネスをもっと伸ばす
- ◆ 産業知的創造：グリーン、AI、医療特化
- ◆ 空の活用可能性
- ◆ エネルギー産業、医療（バイオ）産業
- ◆ デマンド型の移動産業

(参考) ワークショップ等で頂いたご意見

◆ 都市創造部会 議論テーマ

【都心再生戦略の観点から、次期基本計画検討にあたって】

- 都心の機能更新は進みつつあるが、革新的な経済活動が生まれているか？
「基本計画」的に言えば) 都市の成長は十分か？/今後どのような成長が必要か？
- 都心の機能更新は進みつつあるが、高度人材の定住と就業に至っているか？
- 機能更新により、イノベーションの基盤となる「生活の質」は毀損されていないか？
「基本計画」的に言えば) 好循環になっているか？

● テーマ1 : イノベーション都市の実現に向け、都心/中間/郊外に備えるべき機能と実現施策

革新的な経済活動を生むために、都心はどのような機能・役割を担うべきか？

都心が高度化しつつ、「生活の質」を担保するには、中間（フリンジ）や郊外（都市圏）の機能/役割も重要なのではないか？

- 例) ・都心：イノベーションの推進役かつロールモデルとなるようなピラー企業の誘致や都心への拠点整備（立地）の支援
・中間：イノベーターへの低廉な職住環境の提供、生活者との共創の場など、包摂性を高める機能

● テーマ2 : 都市圏・九州と一緒に発展するリーダー都市としての施策

都心のイノベーション経済が福岡都市圏・九州の経済成長に波及するために、もしくは、都市圏・九州のリソースも活かしながら福岡都心がイノベーションを生み出すために、新たな仕掛けが必要ではないか？

（交通ネットワーク施策、都心と都市圏の連携施策など）

- 例) 九大伊都キャンパスなど都市圏で育成した高度人材に対する公共交通の優待割引制度
（移動の自由や社会参加の支援）

(参考) 背景：第2次福岡都心再生戦略の推進

第1次
2012

支店経済からイノベーション経済へ
3つの異なる個性 (MICE, CREATIVITY, GATEWAY)

イノベーションアンカー

博多、天神、WF

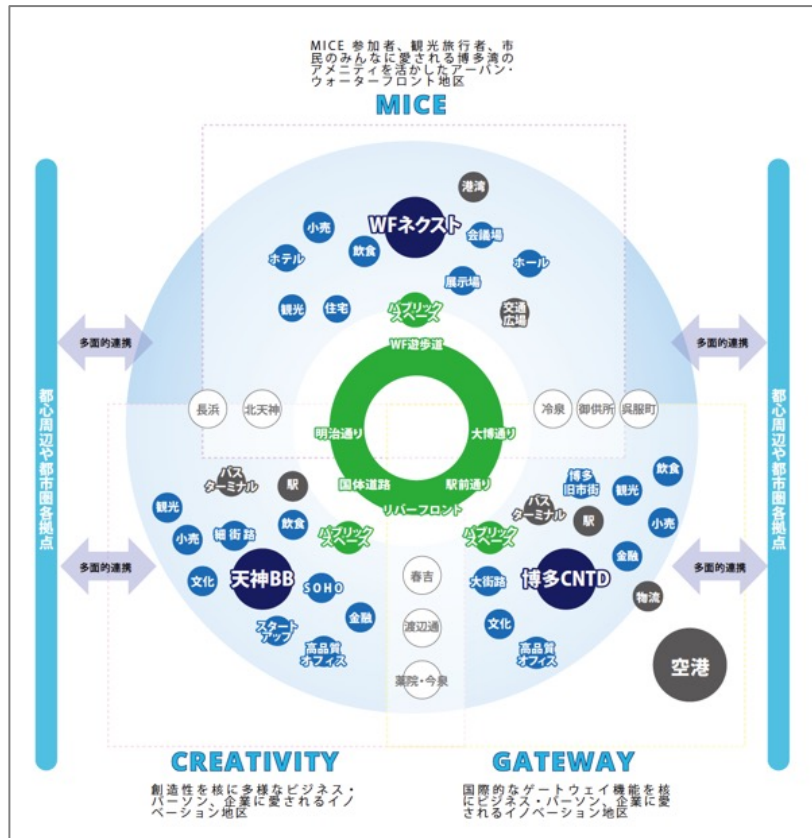
第2次
2021

都心全体に広がるイノベーション経済
中核3拠点のイノベーション経済を都心全体に波及
／都心と都市圏及び広域とのより緊密な連携

イノベーションアンカー

博多、天神、WF

+ 渡辺通・薬院・今泉、北天神・長浜、春吉・西中洲



都心全体に広がるイノベーション経済

1. 博多、天神、WFの3つの都心拠点地区のイノベーションアンカー^{※2}を核に革新的な経済活動が盛んに生まれ、都心の機能更新が進んでいる。
2. 3つの拠点地区をつなげる拠点に新たなイノベーションアンカーが創られ、重層的に革新的な経済活動が広がっている。
3. 魅力的な公共空間、街路空間やベイフロント・リバーフロントの整備によって生まれた都心のアメニティが、高度な人材の定住と就業を引きつけている。
4. 福岡・博多の独自性を感じられる象徴的な都心の魅力が、人々と投資を呼び込んでいる。
5. 3つの異なる経済的な個性 (MICE、CREATIVE CBD^{※3}、GATEWAY CBD) が連携することで都心経済を拡大し、福岡都市圏、ひいては九州・日本の経済成長に波及している。

◆ 1 : イノベーション都市の実現に向け、都心/中間/郊外に備えるべき機能と実現施策
都心/中間/郊外の特徴を生かした機能分担、エリア内/エリア間の人的交流などの意見

◆ 都心/中間/郊外を問わず都市全体での取り組み :

- 都心・中間・郊外各エリアを特色づけるようなシンボル・名所づくり (例.大名ガーデンシティ)
- 都心・中間・郊外が分断されることなく、結節点で交流できる仕組みづくり
- 市内エリア間での経済格差への対応、中間・郊外の活性に向けた継続的な取り組みと官の支援
- 天神BBを支えるエッセンシャルワーカー/ブルーワーカーへの支援、アフォーダブル住宅の整備
- 国際化の強化 : 海外企業・人材のニーズに合ったオフィスや住宅の開発、海外の大学やインターナショナルスクールの誘致、グローバル企業の誘致、国際線ターミナルへの地下鉄延伸、WF地区にリトルアジア整備
- 学生・外国人を対象にしたイノベーション教育の充実
- 固定資産税の目的税化による教育・交通・医療への投資 (都市の成長による税収を還元・再投資)
- 公園・緑地の整備、水辺の高質化

◆ 都心の機能と施策 (博多・天神・WFなど) :

ビジネスの集積・交流・オープンイノベーション

- 域外から資金を集めるビジネスの集積 (天神 : 福岡市の企業、博多 : 大企業の支店)
- ピラー企業の誘致にむけた産業や企業の具体化 *ピラー企業 : イノベーションの推進役となる企業
- ビジネスの交流拠点 : 賃料補助などのインセンティブ制度、WFに高度人材に見合う高質な住環境
- 起業家への支援の充実
- 産学連携によるイノベーション (大企業/大学)、行政—大学生・市民のコミュニケーション強化、大学立地

天神・博多の機能更新による変化への対応

- 市民のアクセスへの考慮、市民に開かれた場、市民がくつろげる場の拡充 (芝生広場など)
- 天神BB等により整備されたハードを活用した競争力のあるソフト戦略

その他都心全体での取り組み

- 都心 (博多・天神・WF) をつなぐ交通網の強化、自動運転などを見据えた交通ネットワークの革新
- 都心 (天神・博多) のエリアブランドの確立 (それぞれのエリアの特色出し)
- ウォーターフロント再整備の進展

(参考) ワークショップ等で頂いたご意見 都市創造部会テーマ

◆ 1 : イノベーション都市の実現に向け、都心/中間/郊外に備えるべき機能と実現施策

◆ 中間/郊外の機能と施策

挑戦できる環境整備、イノベーター人材の育成

- 多様な選択肢やスモールビジネスに挑戦できる環境の整備により福岡の魅力向上
- 低廉な家賃を生かした挑戦できる仕組み：スタートアップ企業誘致、コワーキングスペースの拡張
- 職住近接を生かした更なる交流スペース、リビングラボ（渡辺通：スタートアップ企業）
- 次世代のイノベーターが永住したくなる環境整備：住環境・教育環境・マインド
- 理系人材やクリエイティブ人材の誘致・育成：「つくる」仕事の間づくり、より専門的な学びの場の提供
- ネットワーク環境（5G、フリーWi-Fi）の整備

住みやすさの向上

- 公共施設の整備（老朽化対応）
- 居住地域としての強化（住みやすい空間）
- 幼稚園・保育園の充実（待機児童ゼロシティを外へアピール）
- 商業施設づくり：住みやすさの向上や交流を促す遊び場

その他資源の活用

- 百道地区周辺の観光地へのアクセス強化（外国人旅行者は福岡タワー→大宰府となっている）
- 空室が目立つ天神周辺部ビルの活用

交通アクセスの強化

- 規制緩和によるアクセス性の向上
- 九大へのアクセス強化（モノレールや高速道路）
- 中間と中間/郊外の交通網整備（都心を経由しない交通ネットワーク）

(参考) ワークショップ等で頂いたご意見 都市創造部会テーマ

◆ テーマ2 : 都市圏・九州と一緒に発展するリーダー都市としての施策 広域連携によるビジネス環境整備と地域課題解決の両立、連携を支える交通などの意見

- ◆ 都市圏との連携や地域資源を活用した産業振興:
 - ◆ 他都市と連携した経済成長の促進：東京との2拠点セールス戦略
 - ◆ 地域資源を活かし、周辺都市との連携によるイノベーションの波及
 - ◆ 福岡市・北九州市の情報連携の強化による地域全体での発展
 - ◆ シリコンアイランド再興のストーリーを活用した象徴的な拠点の形成：人材育成し熊本へ
 - ◆ 福岡都市圏にとどまらない都市/生活機能の分担・連携（例.教育）
 - ◆ eスポーツやダンスなど新たな文化や産業の象徴的な拠点の創出
- ◆ ビジネス環境と誘致施策:
 - ◆ 民間企業のイノベーションへの投資を後押しするインセンティブや規制緩和
 - ◆ 外資系企業誘致のための税制優遇措置の検討：シンガポール等の他国と比した競争力
 - ◆ 世界最高クラスのIT企業や国際金融機関の誘致
 - ◆ WF地区へのIR誘致による九州全体への波及効果の最大化
 - ◆ 人の交流、派遣、出向、常駐の仕組み化
 - ◆ 規制緩和特区の活用で人材を引きつける金融特区の設置検討
 - ◆ 特区制度を通じた新たなビジネスチャンスの創出
- ◆ インフラと交通ネットワーク:
 - ◆ 人的資本と移動をセットで検討：周辺エリア（大学立地エリア等）と協力した都市圏全体の発展
 - ◆ 都市圏人口増に伴う通勤混雑や渋滞への対策
 - ◆ 福岡都市圏のコンパクトシティ化：福岡市は既にコンパクトシティだが都市圏でもコンパクトに
 - ◆ 渇水対策

(参考) ワークショップ等で頂いたご意見

◆ デジタル部会 議論テーマ

[上位概念の理解]

- 福岡市の基本構想の踏襲
- FDCの掲げる福岡地域の将来像とのリンク

[具体的提案における理解<福岡市計画とのリンクとFDCらしさと>]

- 具体的提案における福岡市DX戦略との親和性及び地域戦略との関連性
- 産学官民の連携を特徴とした事業創出機能とは
- 官民連携における新たな事業創出に欠かせない都市基盤、戦略とは

➤ FDCデジタル部会方針及び事業計画(R5)と福岡市DX戦略から

<FDCデジタル部会方針>

1. 全体共通基盤としてのデジタル基盤の確立
2. 産学官民連携による共助モデルの確立
3. 九州広域をフィールドとした社会課題解決モデルの創出

<福岡市DX戦略から>

1. DXの推進を支える基盤
2. まちのDX
3. 仕事のDX

➤ 具体的提案ポイント

◆ 全体共通基盤 (DXを支える) 構築

- まちの情報インフラの整備
- 広域都市連携基盤の整備

◆ 共助モデル構築 (都市創造[まちのDX]、産業創造[仕事のDX])

- 行政データとの連携スキーム整備
(情報端末、手続き<ルール化>)
- 継続かつ迅速なオープンデータの活用基盤



(参考) ワークショップ等で頂いたご意見 デジタル部会テーマ

◆ テーマ1 : 全体共通基盤 (DXを支える) 構築

基盤構築に係る環境整備や官民でのデータ連携に関する意見

- ◆ 官民相互のデータ活用の推進
 - 民間を含め共通基盤化 (例.死亡した際の各種手続きの簡素化 (役所→民間))
 - 行政保有データへのアクセス改善
 - 企業が保持しているデータを使用、活用しやすくなるようなインセンティブの導入
 - 「パーソナルデータ」を一般企業でも使用できるようなセキュア性を担保したデータ連携基盤の構築

- ◆ 基盤構築のための環境整備
 - 技助ビジネス産業の創造とそれを支えるデータ基盤の構築
 - データ連携基盤の運用母体の確立、ルール決め、手順整備
 - データ連携基盤を支えるネットワーク環境の構築
 - 次世代デジタル網の整備
 - 高速Wi-Fiなどインターネット網の整備

- ◆ その他
 - リビングラボ機能の導入しやすさ改善
 - 各種webサイトの見やすさ。誰でも簡単に取得したい情報に辿り着ける

◆ **テーマ2** : **共助モデル構築 (都市創造[まちのDX]、産業創造[仕事のDX])**
まち/行政サービス、防災、交通、仕事/健康、観光、金融、教育などの付加価値を高める意見

◆ まちのDX:

行政サービス

- 行政手続き・サービスのデジタル化
- 行政手続きのDX推進 (市内引っ越し手続きのDX化)
- 役所に行かなくても済むようなオンライン申請の充実

インフラ

- 防災・防犯のデジタル化の推進 (避難者の登録、デジタルハザードマップ)
- 水道管のDX

交通

- 自動運転やラストワンマイルの観点からのドローン配送の実装化
- 地下鉄はやかけんのスマホ取込
- 空のインフラ整備 (航空法で規制されている範囲でのドローンの飛行許可)
- 交通・人流・購買データの観光やまちづくりへの応用 (可視化やプラットフォーム化により街の活性や事故防止、混雑緩和)

◆ 仕事のDX:

- 健康医療、介護・保育データ (PHR) 取得・共有による健康寿命の延伸、漏れのない福祉サービス提供
- 観光資源のデータベース化、旅前・中・後の情報集約とスマート化
- NFTアーティストの育成
- デジタル銀行により納税もデジタルで完結
- 教育分野のデジタル活用
- 食のデータ一元化によるフードロス削減、飲食店のDX (生産者/消費者の顔が見える、インタラクティブ)
- 海外の高度人材が安心して働けるよう、言語データを活用し会話が成立する仕組みの構築⇒女性やシニアが安心して生活できることへ繋がる (技助)